

ワークショップ報告書

1 開催概要

1 中学生・高校生ワークショップ

趣旨	品川区では、「品川区子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが読書を好きになるために、どこでも、いつでも、自分から進んで本を読むことができるように、いろいろな取り組みを行っています。中高生にもっと読書を楽しんでもらうために、アイデアを考えるワークショップです。
日時	2024年8月25日（日）14：30～16：00
場所	品川図書館（北品川2丁目32-3）
参加者	品川区立図書館のティーンズボランティア制度に登録している中学生、高校生 ※大学生のティーンズボランティアにファシリテーター（各グループの進行役）を依頼
参加人数	中学生：11名 高校生：3名 大学生：5名 事務局：品川区 3名 創建2名

2 大学生ワークショップ

趣旨	品川区では、「品川区子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが読書を好きになるために、どこでも、いつでも、自分から進んで本を読むことができるようにいろいろな取り組みを行っています。中高生にもっと読書を楽しんでもらうために、アイデアを考えるワークショップです。
日時	2024年8月27日（火）14：00～15：30
場所	品川図書館（北品川2丁目32-3）
参加者	立正大学図書館 学生スタッフ 清泉女子大学図書館 学生スタッフ
参加人数	立正大学図書館 学生スタッフ：5名 清泉女子大学図書館 学生スタッフ：7名 事務局：品川区3名 創建3名

2 主な結果

1 中学生・高校生ワークショップ

【Aグループのまとめ】

- 読書をしない理由としては、本が多くどの本から読めばよいかわからない、タイトルがつまらなさそう等。自分に合う本なのか選ぶのが難しい、図書館の使い方が分かっていない等の意見が挙げられた。
- それらに対する対策として、わからないことに対しては、どの層向けの本なのかをはっきりさせる。また、ランキングを作ってみる。
- インターネットを使った対策としては、有名人のSNSやYouTubeのショート動画の本紹介などをきっかけとして読んでみようと思ったり、品川区内の近所を聖地にした本があれば、そういう情報を発信することで読むきっかけになると思う。
- 自分たちができることとしては、本のバーコードの隣にちょっとしたあらすじをつけると、タイトルに惹かれて本を手にとった時に確認できて良いと思う。
- 図書館の中に、近所の聖地の本や話題の本等、対象別のコーナーを作ると良い。
- POPについては、自分たちティーンズボランティアが作っても良い。また、図書館に来た人が自由にPOPを作成できるコーナーを作っても良いと思う。

【Bグループのまとめ】

- 読書しない理由としては、面白い本を見つけることができないこと、本に対するネガティブなイメージが強いこと等の意見が挙げられた。
- 面白い本を見つけることができないことに対して、図書室や図書館では、目を惹くコーナーや、同世代のティーンズボランティアがお薦めする本を置いてみると良い。パッと読める本、手軽に読める本を選ぶことが大切だと思う。
- ネガティブなイメージを持っているのは、学校で出される課題が暗く、そうした本を強制的に読まされたことが原因なのではないか。
- 課題として本に触れるのではなく、お友達が薦めた本に触れる機会を作った方が良い。その際には、内容を暗いテーマではないもので、明るいものから薦めていくことがポイントだと思う。
- SNSでは、小説の内容が気になるようなセリフを入れたティーザー（視聴者をじらすような仕掛け・仕組みを用いて、興味関心を引くことを目的とした広告や映像のこと）を作ったり、YouTube化してみてショートで流すとか。そういうバズりそうなことをやってみる。
- ティーンズボランティアが自分たちと同じ世代向けにPOPを選んでも良い。

【Cグループのまとめ】

- 読書しない理由としては、面倒、時間がない等の意見が挙げられた。自分の好きな本がわからない、何を読んで良いのかがわからない、という意見が多かったので、それについてできることを考えてみた。
- 図書館でできることとしては、本の福袋。毎年やっているところが多いが、毎月やっても良いと思う。また、本の通帳を作って、本を借りる楽しみを付与すると面白い。
- インターネットの利用については、図書館ホームページに検索の画面があるが、題名、作者だけ

ではなく、自分の趣味に合ったキーワードなどで検索ができると良い。ホームページだけではなく、館内のパソコンでも、そういう機能があると良い。

- ティーンズボランティアができることとして、お薦めの本を選んでティーンズ向けの棚を作るが、その際に、例えばショート縛りにするとか。ショーショートを特集するとか。5分で泣ける本等。
- また、POPの工夫としては、ネタバレさせるもの。1枚目にはお薦め、その先が気になるようなことを書いておいて、それをめくると結末が書いてあるものなどをしても面白い。

2 大学生ワークショップ

【Aグループのまとめ】

- 読書しない理由としては、主に4つの意見が出た。1つ目はハードルが高いという点。小中高で「本を読め」とよく言われるが、本が多すぎて何を読めば良いのかわからないことがあると思う。それに対して、私たちができることとしては、フローチャートを作り、「今、穏やかな本を読みたいですか」などの質問にYES or NOで答えてもらい、その時の自分に合うお薦めの本を提供することで、本を選択しやすくなると思う。また、図書館の入口などで、特定のテーマや何らかのコラボや夏祭り等、そういう情報に接してもらうことで、本の種類が多すぎてわからないという問題を解決できるのではないか。
- 2つ目として、部活や遊びのほか、インターネットの普及等により、読書以外にやりたいことがあるという意見が挙げられた。それに対しては、YouTube ショートで本のあらすじを紹介したり、有名人のお薦めの本を紹介したり等があれば、ネット環境でも本の情報に触れることができる。本を読む人はカッコいい、大人であるというプラスのイメージを持たせることで、本に触れる機会を増やしてもらうと良いのではないか。
- 3つ目として、読むタイミングを作れないことや、部活や塾で忙しく、時間がないという点が挙げられた。その対策としては、高校も含めて学校で読書タイムを作ること。読書感想文や何冊読みなさいというような強制では本を読む気にはなれないという意見も出たが、ある程度、学校等で本を読む時間を作ることで、読書に触れるきっかけになると思う。
- 4つ目として、読む環境が整っていない点。家に読む本がなかったり、周囲に本を読む人がいなかったり、そもそも本を読もうとするきっかけがなかったりする場合がある。その対策としては、若い世代であれば、本よりもマンガに興味を持つと思うので、マンガをきっかけに関連する本を置いておくのが良いのではないか。例えば、文豪ストレイドッグス（朝霧カフカ原作、春河 35 作画による漫画作品。太宰治、芥川龍之介、中島敦といった文豪がキャラクター化され、それぞれの文豪の作品や、ペンネームなどの名を冠した異能力を用いて戦うアクション漫画）をご存じの方が多と思うが、私が行っていた高校でも、マンガと一緒に作品に関連する文豪の本が置いてあることがあった。あるいは、舞台になっている時代背景や文化、生活等に関する本を置いてみるのも良い。小説だけではなく、様々な知識を得られる本をマンガとともに展示しても良いと思う。

【Bグループのまとめ】

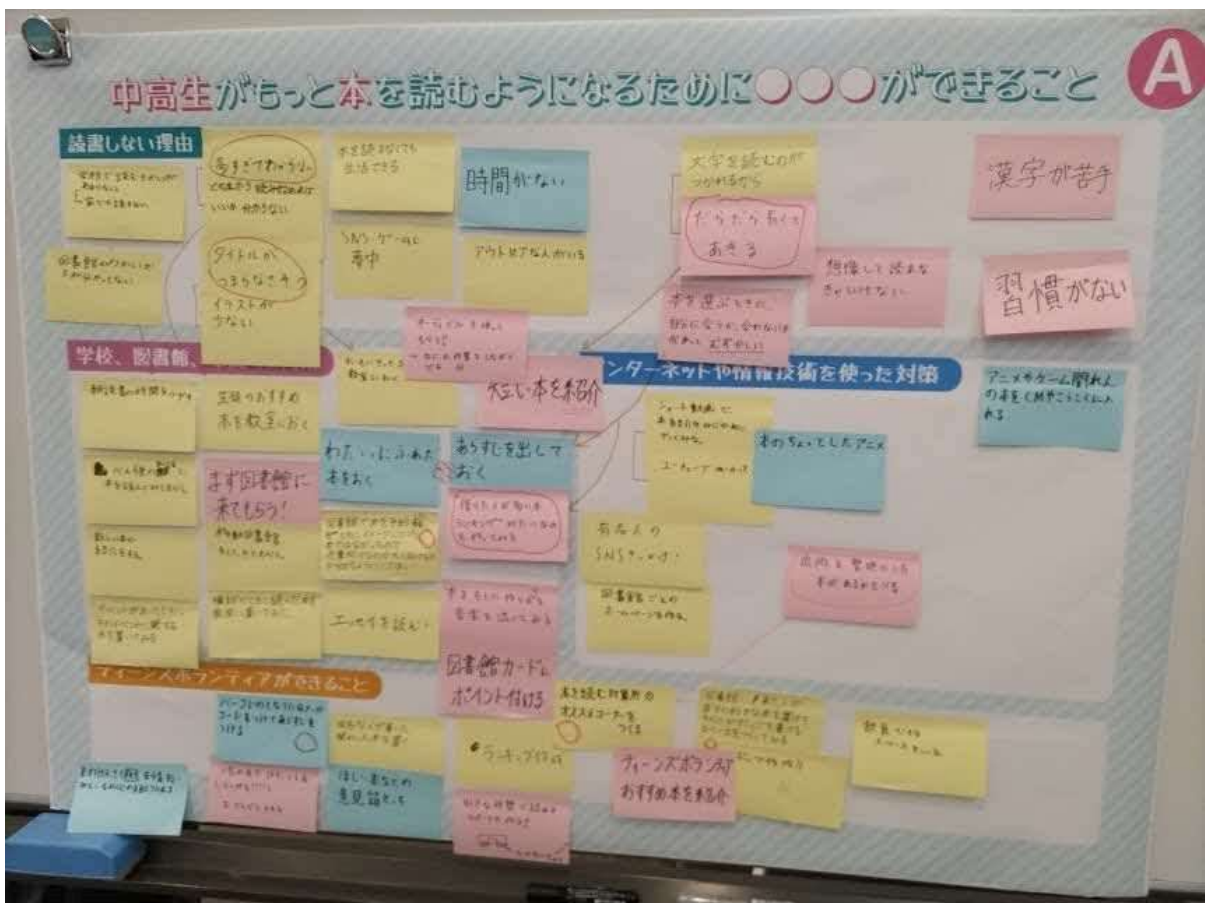
- 読書しない理由としては、主に5つの意見が出た。1つ目、2つ目は、SNSで短いコンテンツに慣れてしまい、本を1冊読み切ることが難しい、短いコンテンツの方が好きという人が多い点。また、内容が難しいものであったり、難しい表現が多いと、読んでもなかなか理解できない。文字が多くて大変。そういう問題への対策としては、「目と耳」と「動画」。「目と耳」というのは、

目で文章を読むという読書以外の方法での読書を提供できれば、文字量が多くて敬遠されるという問題は解決されると思う。「動画」というのは、ショート動画で本を紹介したり、Instagram リール（15～30 秒の短尺動画を作成・公開できる機能）を使ったり等、短いコンテンツを使って本の紹介動画を発信していくことで、本に触れやすくなるのではないかな。

- 3つ目は、読書はどうしても勉強と結び付けられてしまう点。「本を読む」＝「勉強」というイメージを持つ中高生も多いので、本を読まなくなると思う。それに対しては、学校では朝読書の時間を設けたり、教室に本棚を置いたりして、本に触れる機会を作ることが大切だと思う。また、中高生が好きなスポーツ選手やアニメ等、スポーツ選手の記事等から文字に触れたり、アニメを通して本に触れたりできれば良い。自分たちができることとしては、学校では放送の時間に本を紹介したり、授業で読む本に出てくる作家さんの本を紹介したり、映画化されたものの原作を紹介したり。また、皆が読んでいる本のランキングを作ったり、大賞を取った本を紹介したり等、自分たちでもできると思う。
- 4つ目は、何を読めば良いのかわからないという問題に対して、先ほどあったように好きなスポーツ選手やアニメ等を通じて本に触れたり、ショート動画で紹介したりするほか、児童書から大人の本へ移行する際にサポートしてあげると良いのではないかな。自分と相性が良い本を診断するテストをしたりするのも良いと思う。
- 5つ目に関しては、その他としてまとめています。

3 当日の様子

1・中高生ワークショップ



中高生がもっと本を読むようになるために○○○ができること B

読書しない理由

- 体を動かすのが好き
- 本を手にとって読むお金の無さ
- 時間がな
- 面白くない
- 面白くない
- 面白くない
- 面白くない
- 面白くない

学校、図書館、家庭での対策

- 学校
- 図書室
- 家庭
- 先生
- 保護者
- 兄弟姉妹
- 友達
- 家族
- 先生
- 保護者
- 兄弟姉妹
- 友達
- 家族

インターネットや情報技術を使った対策

- 電子書籍
- 図書館
- インターネット
- 情報技術
- 電子書籍
- 図書館
- インターネット
- 情報技術

ティーンズボランティアができること

- 図書館
- 学校
- 家庭
- 先生
- 保護者
- 兄弟姉妹
- 友達
- 家族

中高生がもっと本を読むようになるために○○○ができること C

読書しない理由

- 読書嫌い
- 時間がない
- お金がない
- 面白くない
- 読書嫌い
- 時間がない
- お金がない
- 面白くない

学校、図書館、家庭での対策

- 学校
- 図書館
- 家庭
- 先生
- 保護者
- 兄弟姉妹
- 友達
- 家族

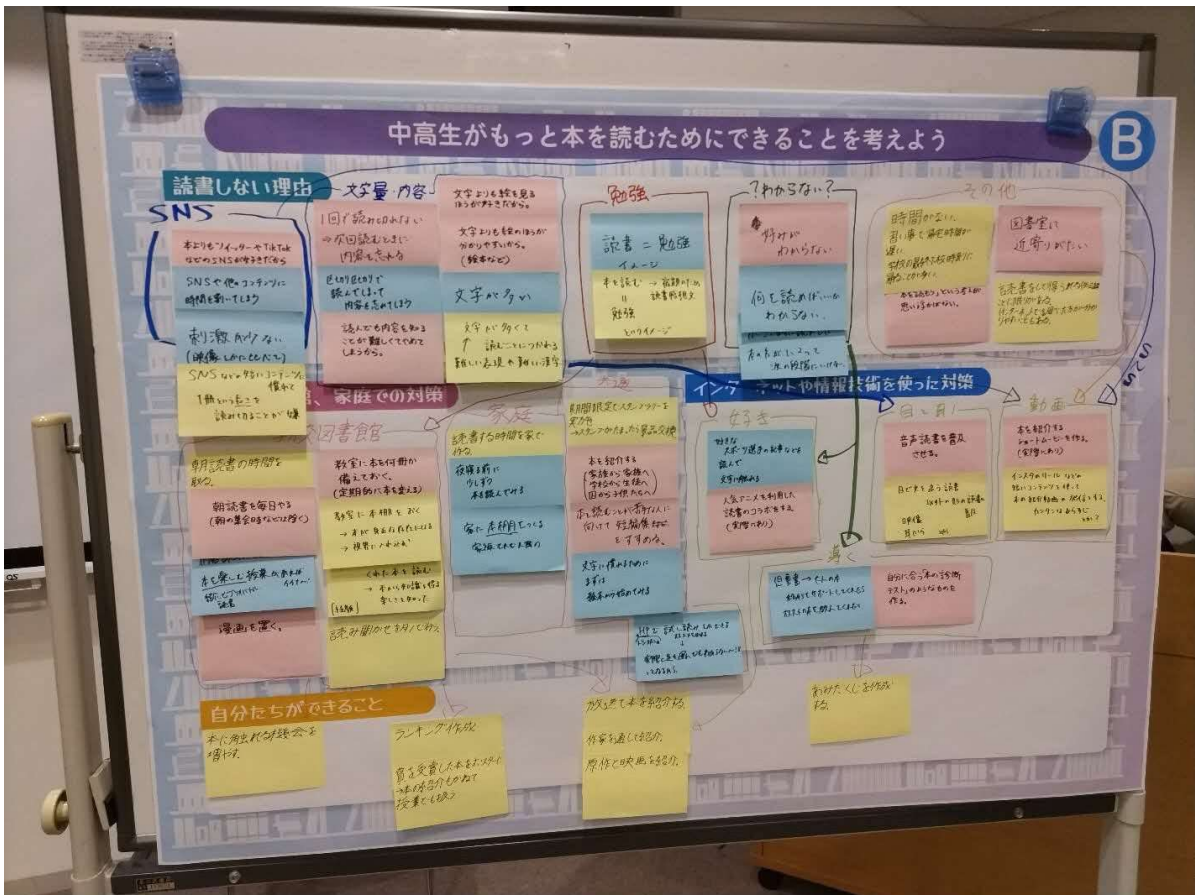
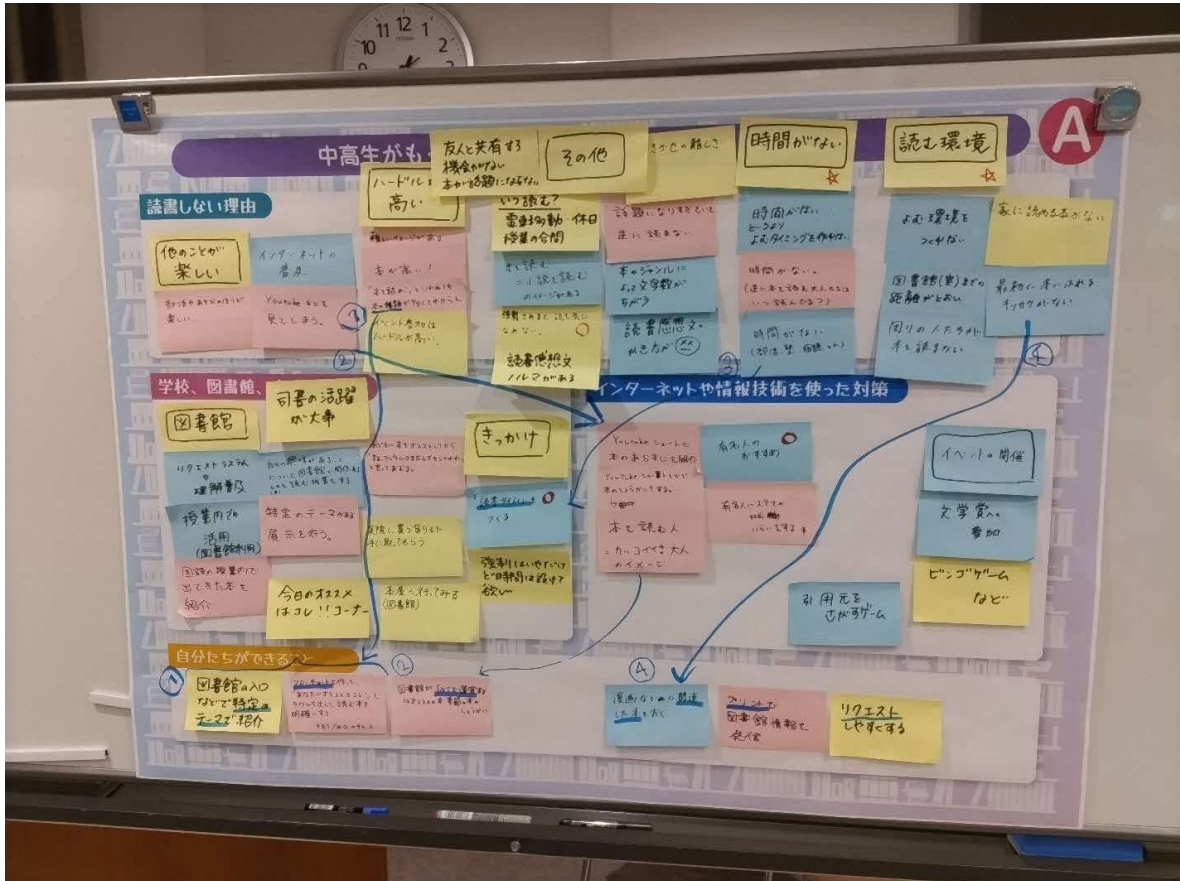
インターネットや情報技術を使った対策

- 電子書籍
- 図書館
- インターネット
- 情報技術
- 電子書籍
- 図書館
- インターネット
- 情報技術

ティーンズボランティアができること

- 図書館
- 学校
- 家庭
- 先生
- 保護者
- 兄弟姉妹
- 友達
- 家族

2 大学生ワークショップ



中高生がもっと本を読むようになるために〇〇ができること

ワークショップの進め方



1 ワークショップについての説明

品川区子ども読書活動推進計画について

中学生段階

対象の捉え方

アイデンティティが形成される時期であることから、本を通じて自分の考えを形成し、また他人や社会に対する認識を深めるような読書が期待されます。

対象別目標

知識社会に主体的にかかわろうとする姿勢を育むとともに、そのための応用的なスキルを高めることを目指します。

高校生世代

対象の捉え方

高校生世代は、知識・情報の受け手から、知識・情報を活かして行動する主体へと転換する時期とも言えます。

対象別目標

社会への参画の準備として、複合的な情報環境を活用する姿勢とスキルを高め、時には実際に社会へと参画することで、知識社会に主体的にかかわる個人となっていくことを目指します。

中高生は、本を通じて、自分自身の意見を持つだけでなく、他人や社会とのかかわりを深めて、知識や情報をより積極的に活用していくことが示されています。

1 ワークショップについての説明

品川区子ども読書活動推進計画について

計画の構成		目的	対象・対象別目標
<p>本等を活用して、自ら主体的に思考し、行動する人に育つ</p>	<p>a 子どもの読み手としての読書意欲を高め、読書活動が習慣化される。</p> <p>読書活動が読者の読書意欲を高め、読者の読書意欲を高める。</p>	<p>A 一人ひとりの育ちや知的関心に応じた継続的な取り組み</p> <p>一人ひとりの育ちや知的関心に応じた継続的な取り組み</p>	<p>乳幼児期</p> <p>対象の捉え方 乳幼児の頃は、家庭に特に、親と読書を通じた、他人や環境とのかかわり時期です。</p> <p>対象別目標 本を通じて読書を通じて、身の周りの事物や出来事に関わり、言葉として言葉として表現し、読むこと、そして読むことが楽しいと感じ、自ら行動しようとすることを目指します。</p>
	<p>b 学年が上がるにつれて読書量が増えること、読書活動の機会を増やすこと。</p> <p>読書活動の機会を増やすこと、読書活動の機会を増やすこと。</p>	<p>B 読書が好きという中高生を増やすための取り組み</p> <p>読書が好きという中高生を増やすための取り組み</p>	<p>小学生段階</p> <p>対象の捉え方 小学生段階の時期は長く、大きく読書を通じての時期です。その目的、読書、読書、読書の受け手から、知識・情報を活かして行動する主体へと転換する時期とも言えます。</p> <p>対象別目標 複合的な情報環境を活用する姿勢とスキルを高めること、知識・情報を活かして行動する主体へと転換する時期とも言えます。</p>
	<p>c 本等の活用も含め、インターネットを適切に使いこなす必要がある。</p> <p>本等の活用も含め、インターネットを適切に使いこなす必要がある。</p>	<p>C 多様なメディアを組み合わせ、情報活用能力を育む取り組み</p> <p>多様なメディアを組み合わせ、情報活用能力を育む取り組み</p>	<p>中学生段階</p> <p>対象の捉え方 アイデンティティが形成される時期であることから、本を通じて自分の考えを形成し、また他人や社会に対する認識を深めるような読書が期待されます。</p> <p>対象別目標 知識社会に主体的にかかわろうとする姿勢を育むとともに、そのための応用的なスキルを高めることを目指します。</p>
	<p>d 学び手としての読書活動を中心として、地域の読書推進士を養成すること。</p> <p>学び手としての読書活動を中心として、地域の読書推進士を養成すること。</p>	<p>D 地域制がかりでの環境形成</p> <p>地域制がかりでの環境形成</p>	<p>高校生世代</p> <p>対象の捉え方 高校生世代は、知識・情報の受け手から、知識・情報を活かして行動する主体へと転換する時期とも言えます。</p> <p>対象別目標 社会への参画の準備として、複合的な情報環境を活用する姿勢とスキルを高め、時には実際に社会へと参画することで、知識社会に主体的にかかわる個人となっていくことを目指します。</p>

1 ワークショップについての説明

今回のワークショップで考える「本を読むこと」について

本を読むこととは、本を読むことはもちろん、
事典・図鑑等での調べごとやインターネット利用を含む
読書活動のことを指します

本日のタイムテーブル

- 1 14:00～ ワークショップについての説明
- 2 14:05～ アイスブレイク（自己紹介）
- 3 14:10～ ワーク

14:10～ ①中高生が読書しない理由を考える

14:25～ ②学校、図書館、家庭での対策を考える

14:40～ ③インターネットや情報技術を使った対策を考える

14:55～ ④対策を選ぶ

各15分

- 4 15:10～ 各グループによる発表・ふり返り

5

2 アイสบレイク(自己紹介)

①自己紹介、②本が好きになったきっかけやティーンズボランティアに登録したきっかけ等について、皆さんの経験を交えながら、おひとり1分程度で話してください。



6

①中高生が読書しない理由を考えよう！

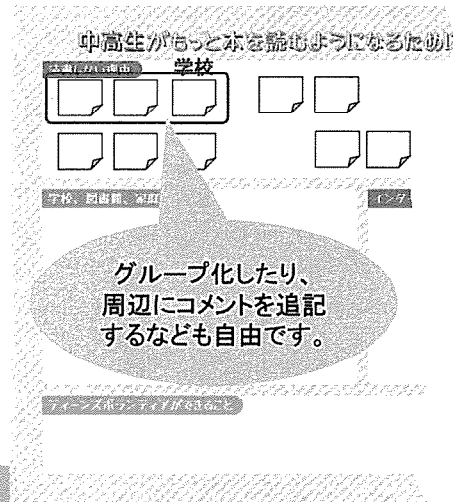
中高生が読書しない理由について、自分の意見を付箋に書き、模造紙に貼りつけてください。

その後、付箋に書いた自分の意見を発表しつつ、意見交換してください。



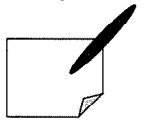
7

模造紙の使い方 その1



●書込み作業

お手元にある付箋に、中高生が読書しない理由を付箋に書きこんでください。（付箋1枚につき1つの意見）



●貼り付け作業

自分の意見を模造紙に付箋を貼ってください。なるべく近い意見は近くに貼ってください。

●思いついた意見をどんどん出して記入してください！

他の人の意見を聞いたり、対話の中で思いついたことについてもどんどん追記してください。

8

②学校、図書館、家庭での対策を考えよう！

中高生が読書していくために学校、図書館、家庭でできる対策について、自分の意見を付箋に書き、模造紙に貼りつけてください。

その後、付箋に書いた自分の意見を発表しつつ、意見交換してください。



9

③インターネットや情報技術を使った対策を考えよう！

中高生が読書していくためにインターネットや情報技術を使った対策について、自分の意見を付箋に書き、模造紙に貼りつけてください。

その後、付箋に書いた自分の意見を発表しつつ、意見交換してください。



11

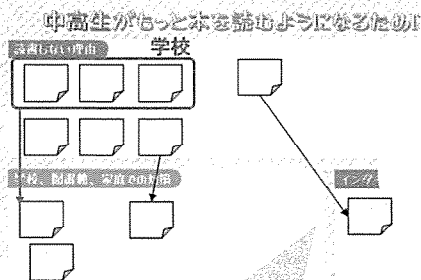
模造紙の使い方 その2

●書込み作業

お手元にある付箋に、対策（インターネットや情報技術を用いた対策を含む）を付箋に書きこんでください。

●意見の整理

互いの意見を聞きながら、関連する意見をつなげたりしながら、様々なアイデアを出していきましょう。



どの理由に対応した対策なのか、つなげてみてください。

10

④対策を選ぼう！

出された意見の中から、特に紹介したい対策について、グループで決めて発表してください。また、ティーンズボランティアができることについても、合わせて意見をまとめてください。



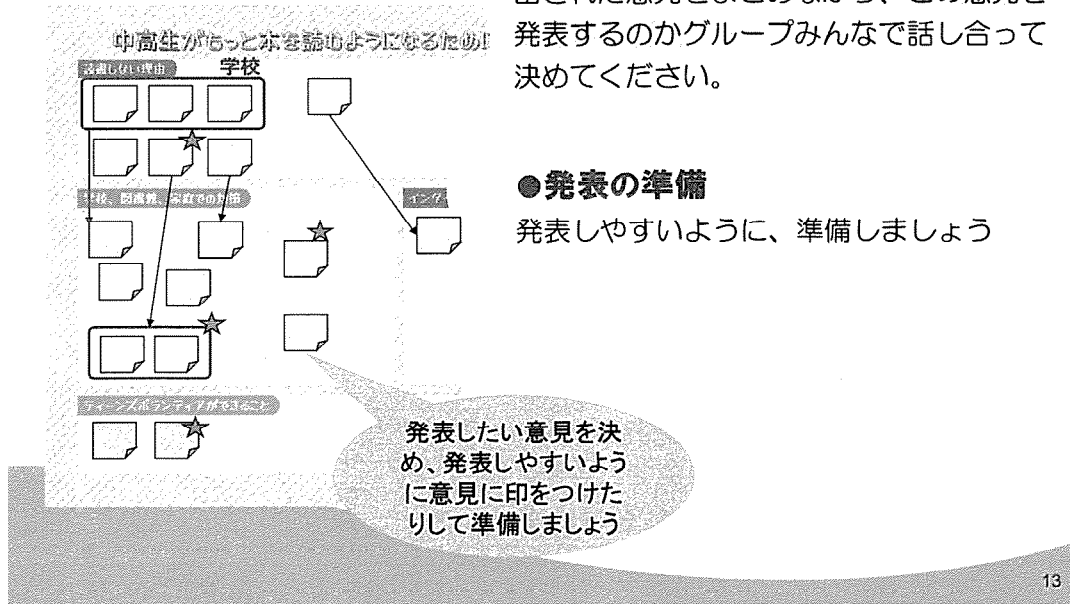
12

●意見のピックアップ

出された意見をまとめながら、どの意見を発表するのかグループみんなで話し合って決めてください。

●発表の準備

発表しやすいように、準備しましょう



4 発表

発表

◎1グループ2分を目安に、各グループで出された意見等を紹介してください。

次期「品川区子ども読書活動推進計画」の体系案

目的	策定の視点	目標	対象・段階別目標
<p>すべての子どもたちが、読書や本の活用等を通じて、豊かな感性と思いやりの心を育み、実り多き人生を送る力を身につける</p>	<p>不読率 (1 か月間に1 冊も本を読まなかった子どもの割合)の低減</p> <p>読書環境の整備 ◇本について相談できる人が身近にいる環境 ◇支援や特別な配慮を必要とする子どもたちへの対応 ◇デジタル社会のメリットを活かす</p> <p>子どもの主体的な読書活動の推進</p>	<p>1. 社会のデジタル化の進展など、急激に変化する時代において、子どもの読書活動を幅広く捉え、図書館・学校・家庭・地域等が連携して推し進める。 2. 読書体験を生涯にわたる学習意欲やウェルビーイングにつなげる。 3. 自分の良さや可能性を認識し、他者を尊重するとともに多様な人々とつながりながら豊かな人生を切り拓く。</p>	<p>対象・段階別目標</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【乳幼児期】 聞く耳を育てると言われる「子守唄」や「わらべうた」を聞いて育ち、おひざの上でふれあいながら、絵本をたっぶり読み聞かせてもらって言葉を習得し、いろいろな本に親しむようになります。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【小学生段階】 読み聞かせからひとり読みへスムーズに移行し、様々な本に出合って、読書の世界を広げるとともに、本等を活用して知りたいことを調べる力、情報を取捨選択する力を身につけます。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【中学生段階】 一人ひとり異なる読書興味を追求するとともに、本やインターネットから得た情報を活用し、社会に主体的に関わろうとする意識・意欲を育み、そのための能力を高めます。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【高校生段階】 読書の幅を広げるとともに、本やインターネットから得た知識・情報を活用して、主体的に社会へ参画し、情報を発信する側に立つべく、情報活用能力を身につけます。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【大学生段階】 地域の大学生世代同志がつながり、中学生・高校生ともつながって、区の子どもの読書活動推進の一翼を担うことを目指します。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【保護者】 家庭における子どもの読書習慣の定着の大切さをさらに理解するとともに、子どもの読書活動をより積極的に支援することを目指します。 本を読むことに困難さがある子どもでも、その困難さを取り除く手立てがあることを認識し、実際に取り除くために行動することを目指します。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>本を読むことに困難さがある子ども</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【障害がある子ども】 肢体不自由・視覚・聴覚・知的・ディスレクシア（文字の読み書きに困難を抱える障害）等、それぞれの障害特性に合わせて、困難さを取り除くことを目指します。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【外国にルーツがある子ども】 それぞれの母国語や英語による読書ができる環境を整えるとともに、日本語習得の支援に役立つ環境を整えることを目指します。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【生活環境が厳しい子ども】 貧困家庭・ヤングケアラーなど、それぞれが抱える問題を本を読むことによって解決できる可能性があることを認識してもらうことを目指します。</p> </div>

現行計画事業例実施状況一覧

○実施している △実施例がある ×実施していない

複数の段階で例示されている事業

	乳幼児期	小学生段階	中学生段階	高校生世代・大学生世代
1	「家読」の啓発○	「家読」の啓発○	「家読」の啓発×	「家読」の啓発×
2	読書ノート○	読書ノート○	読書ノート△	読書ノート△
3	図書館スタンプラリー○	図書館スタンプラリー○	図書館スタンプラリー△	図書館スタンプラリー×
4	おはなし会（対象別おはなし会）○	おはなし会○	おはなし会×	
5	手づくり会・おりがみ会○	手づくり会○	手づくり会△	
6	読み聞かせ講座○	読み聞かせ講座△	読み聞かせ講座×	
7		ビブリオバトル開催△	ビブリオバトル開催○	ビブリオバトル開催○
8		読書マラソン△	読書マラソン△	読書マラソン×
9		ペア読書×	ペア読書×	ペア読書×
10		タブレットを使ったデータ提供×	タブレットを使ったデータ提供×	タブレットを使ったデータ提供×
11		調べ学習資料の最新版の提供×	調べ学習資料の最新版の提供×	調べ学習資料の最新版の提供×
12		図書館による新聞発行○	図書館による新聞発行○	区立図書館による新聞発行○
13		地域資料・英語資料の充実△	地域資料・英語資料の充実△	地域資料・英語資料の充実△
14		夏休み調べ学習お助け隊○	夏休み調べ学習お助け隊○	
15		科学あそび教室○	科学あそび教室△	
16		一日図書館員○	一日図書館員×	
17		学級文庫△	学級文庫△	
18	児童コーナーの設置・充実○	児童コーナーの設置・充実○		
19			英語資料等の収集○	英語資料等の収集○
20			ティーンズコーナーの設置・充実○	ティーンズコーナーの設置・充実○

段階別事業

	乳幼児期	小学生段階	中学生段階	高校生世代・大学生世代
1	はじめてのえほん よんで よんで事業○	S D G sや”SDG BOOK Club”の本紹介○	ティーンズによる図書館との協働○	部活動との連携△
2	イクメン読み聞かせ講座△		グローバルおはなしルーム×	図書館委員との連携△
3	絵本講座△			区内大学との連携○
4	読み聞かせボランティアの育成や活用の拡大○			各学校等保有の地域・学校資料の写真展示×
5	絵本作家講座△			作家の講演会△
6	ぬいぐるみお泊り会○			ティーンズによる図書館との協働○
7	土曜日・日曜日の事業開催○			S N Sを活用したP Rの強化×
8	人形劇の開催、図書館P Rと図書等の紹介○			短編小説の創作発表の機会提供×
9	「しながわ親子読書の日」啓発○			
10	幼児向け図鑑の収集・充実○			

配慮を必要とする方への事業

	乳幼児期	小学生段階	中学生段階	高校生世代・大学生世代
1	デジ図書／マルチメディアデジ図書の更なる活用・周知の充実△	デジ図書／マルチメディアデジ図書の更なる活用・周知の充実△	デジ図書／マルチメディアデジ図書の更なる活用・周知の充実△	デジ図書／マルチメディアデジ図書の更なる活用・周知の充実△
2	点字図書、さわる絵本、大活字本を含む拡大図書、LLブック等、各種資料収集の整備・充実○	点字図書、さわる絵本、大活字本を含む拡大図書、LLブック等、各種資料収集の整備・充実○	点字図書、さわる絵本、大活字本を含む拡大図書、LLブック等、各種資料収集の整備・充実○	点字図書、さわる絵本、大活字本を含む拡大図書、LLブック等、各種資料収集の整備・充実○
3	来館できない幼児への宅配サービスの強化×	来館できない児童への宅配サービスの強化×	来館できない生徒への宅配サービスの強化×	来館できない生徒への宅配サービスの強化×
4	施設・病院へのアウトリーチサービスの充実○	施設・病院へのアウトリーチサービスの充実△	施設・病院へのアウトリーチサービスの充実×	施設・病院へのアウトリーチサービスの充実×
5		リーディングトラッカー活用の普及△	リーディングトラッカー活用の普及△	リーディングトラッカー活用の普及△
6	発達段階や障害の程度に応じたの対面朗読の実施×	発達段階や障害の程度に応じたの対面朗読の実施×	発達段階や障害の程度に応じたの対面朗読の実施×	発達段階や障害の程度に応じたの対面朗読の実施×
7	多言語イベントや手話付きおはなし会の充実○	多言語イベントや手話付きおはなし会の充実△	多言語イベントの充実×	多言語イベント×
8		マルチメディアデジ図書を体験する機会の提供×	マルチメディアデジ図書を体験する機会の提供×	マルチメディアデジ図書を体験する機会の提供×
9		都立特別支援学校や品川区立障害児者総合支援施設などとの連携△	都立特別支援学校や品川区立障害児者総合支援施設などとの連携×	
10		サビエ図書館の周知△	サビエ図書館の周知△	サビエ図書館の周知△
11	多言語のおはなし会○	多言語のおはなし会○		

現行計画事業例以外に実施した（予定を含む）事業

	乳幼児期	小学生段階	中学生段階	高校生世代・大学生世代
1	本のセット貸出（福袋）	本のセット貸出（福袋）	本のセット貸出（福袋）	本のセット貸出（福袋）
2	グローバルおはなしルーム（英語のおはなし会）	グローバルおはなしルーム（英語のおはなし会）	ボードゲーム大会	ボードゲーム大会
3	本のコンシェルジュ（利用者がリクエストしたテーマに沿った本を図書館員が選んで貸出）	本のコンシェルジュ（利用者がリクエストしたテーマに沿った本を図書館員が選んで貸出）	統計学講座・経済学講座	統計学講座・経済学講座
4	防災ワークショップ	防災ワークショップ		
5		児童向けバスファインダーの作成	児童向けバスファインダーの作成	
6		POP作成講座	POP作成講座	POP作成講座
7	わらべうた講座	読書感想文の書き方講座		
8	木育ひろば（積み木で遊ぶ場の提供）	百科事典マスター教室		
9		犬とふれあう読書会		
10		親子消費生活教室		
11		プログラミング教室		
12		3Dプリント工作教室		